

二次調査

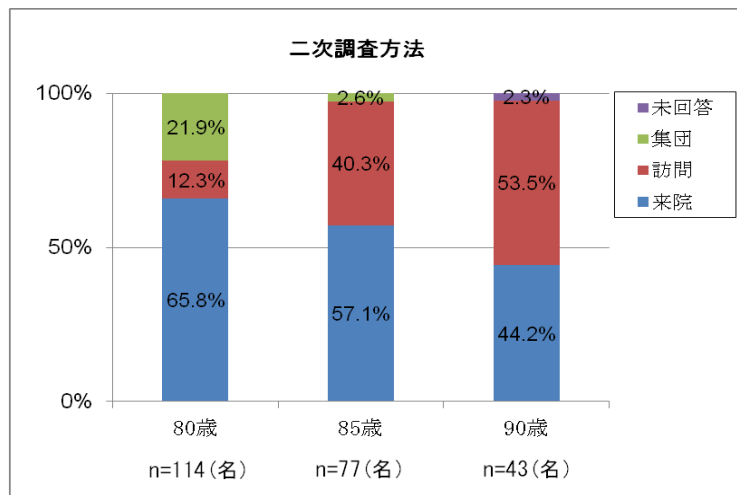
調査方法 : 対面聞き取り調査および口腔内診査

調査期間 : 平成23年11月1日～11月30日

14. 二次調査回収数(名)

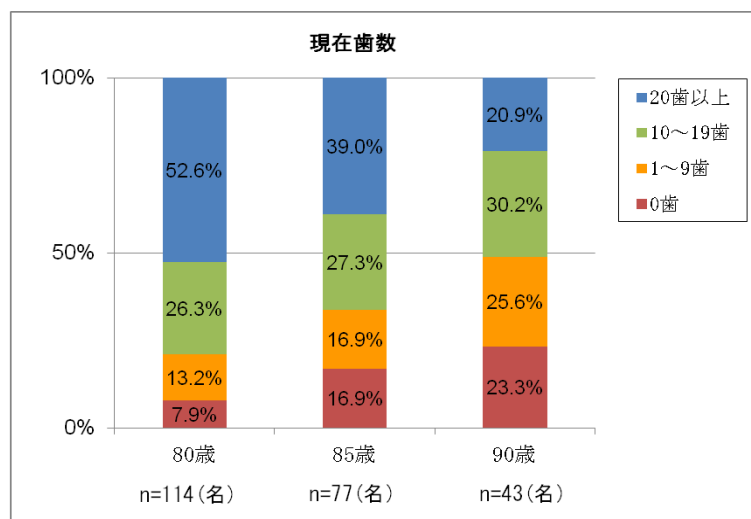
	男性	女性	全体	対象者
85歳	35	32	67	498
	19.3%	10.1%	13.5%	
90歳	17	26	43	493
	13.7%	7.0%	8.7%	

15. 二次調査方法

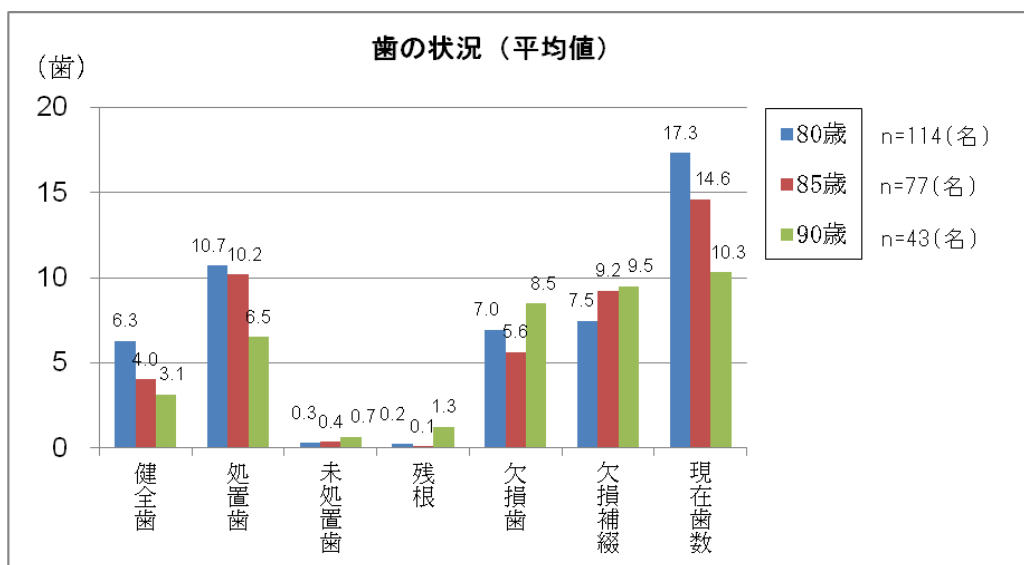


対面による二次調査方法は、80歳、85歳では来院が半数以上を占めたが、90歳では訪問が半数以上を占めた。加齢に伴い来院が減少し訪問が増加した。

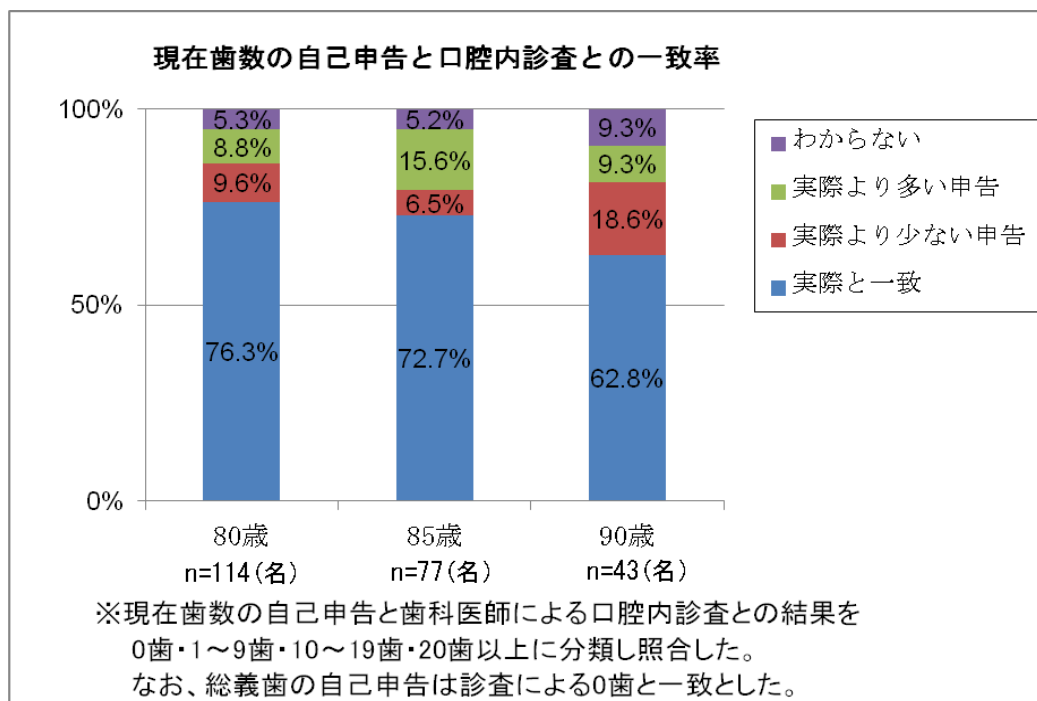
16. 現在歯数



現在歯数は、20 歯以上の割合が 80 歳で約 5 割、85 歳で約 4 割と最も多く占め、0 歯の割合は最も少なかった。一方、90 歳では 10～19 歯が最も多く 3 割を占め、20 歯以上の割合が最も少なかった。加齢に伴い、20 歯以上の割合は減少し、20 歯未満の割合が増加した。

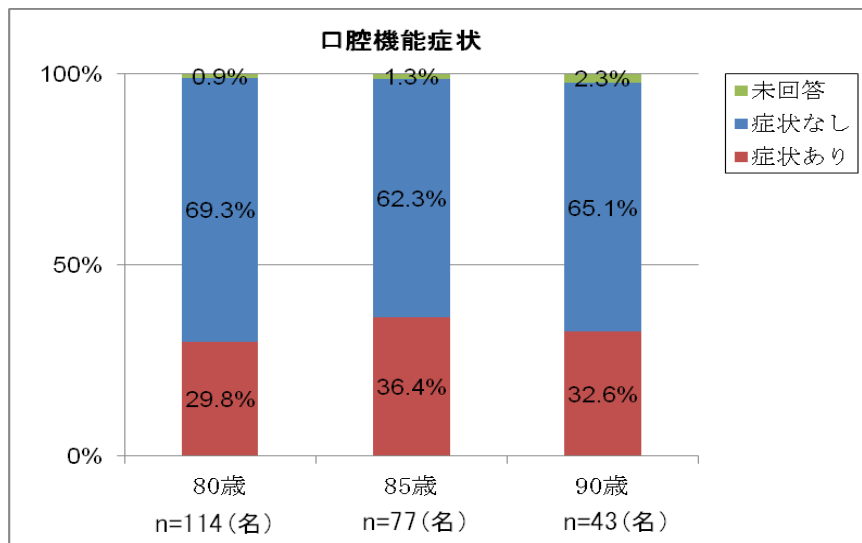


現在歯数については、80 歳は平均 17.3 歯、85 歳は平均 14.6 歯、90 歳は平均 10.3 歯であった。喪失歯数は、80 歳から 85 歳で平均 2.7 歯、85 歳から 90 歳で平均 4.3 歯と増加したことは、特に 85 歳から 90 歳の高齢期における歯の維持管理の必要性が示唆された。加齢に伴い減少した項目は、健全歯、処置歯、現在歯数であった。

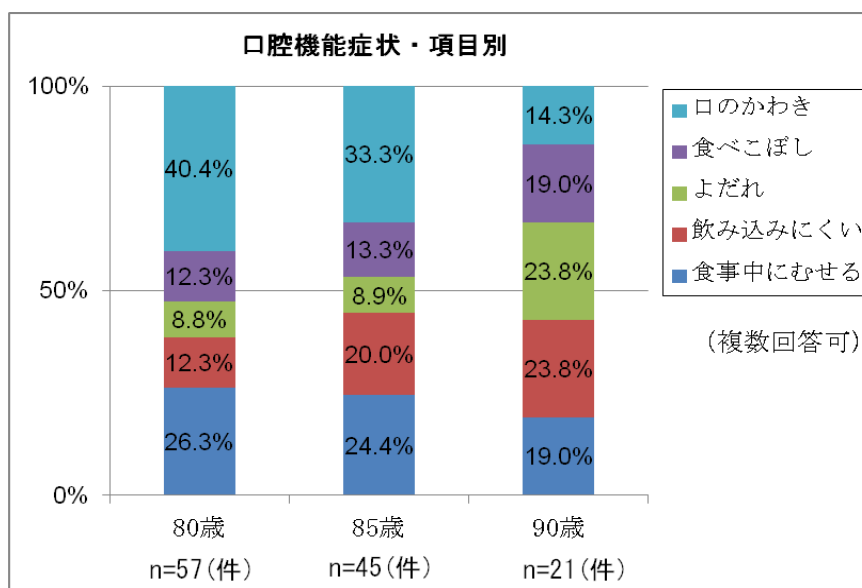


現在歯数について、一次調査の自己評価申告と二次調査の歯科医師による口腔内診査とどの程度一致しているかを調べた結果、どの年齢においても「実際と一致」の割合が最も多く 6 割以上を占めたが、加齢に伴い「実際と一致」の割合は減少した。

17. 口腔機能症状

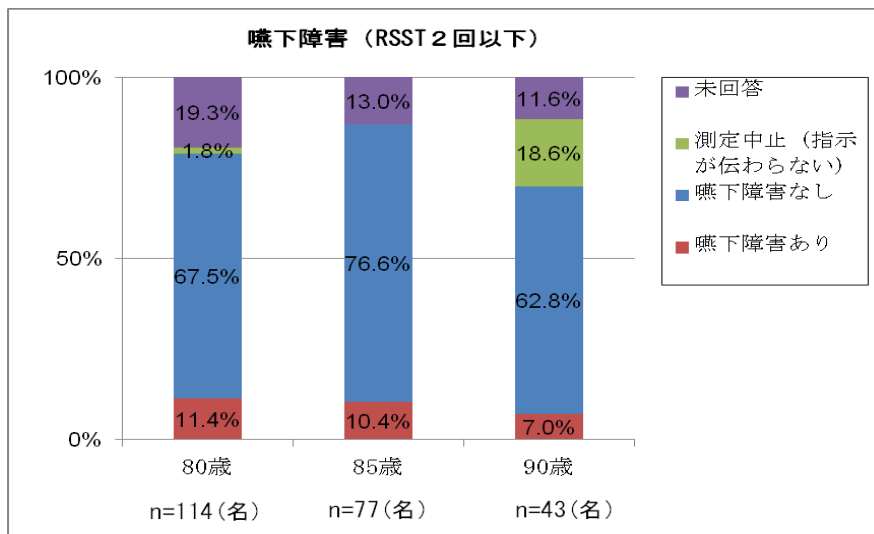


対面聞き取りによる口腔機能症状は、症状ありが80歳で30%、85歳で36%、90歳で33%認められた。



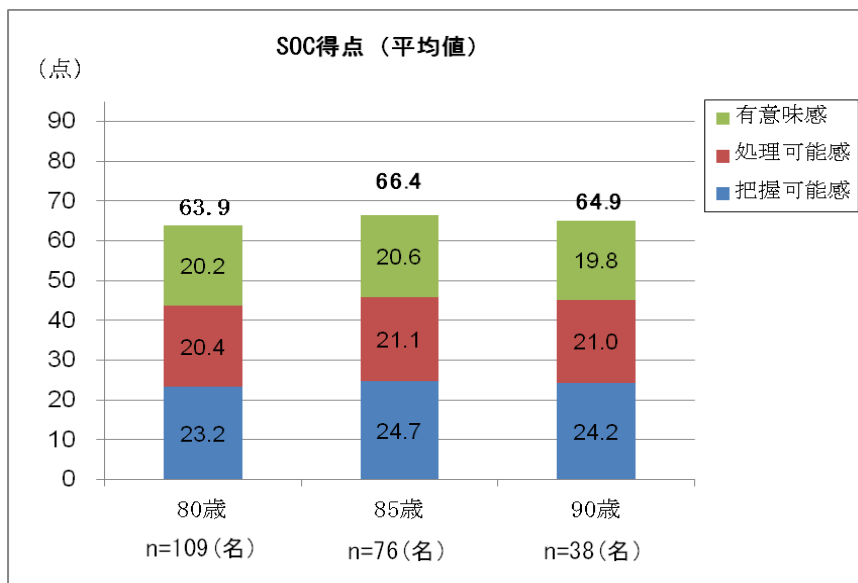
対面聞き取りによる口腔機能評価（各項目）では、「口のかわき」が80歳で40%、85歳で33%と最も多く、90歳は「飲み込みにくい」、「よだれ」が24%であった。また80歳から90歳で増加した項目は「飲み込みにくい」、「よだれ」、「食べこぼし」であった。減少した項目は、「食事の中にむせる」「口のかわき」であった。

18. 嚥下障害



嚥下障害の疑いとされるRSST（反復唾液嚥下テスト）が2回以下の者は、80歳で11%、85歳で10%、90歳で7%程度認められた。特に、90歳で「測定中止（指示が伝わらない）」19%と増加した。

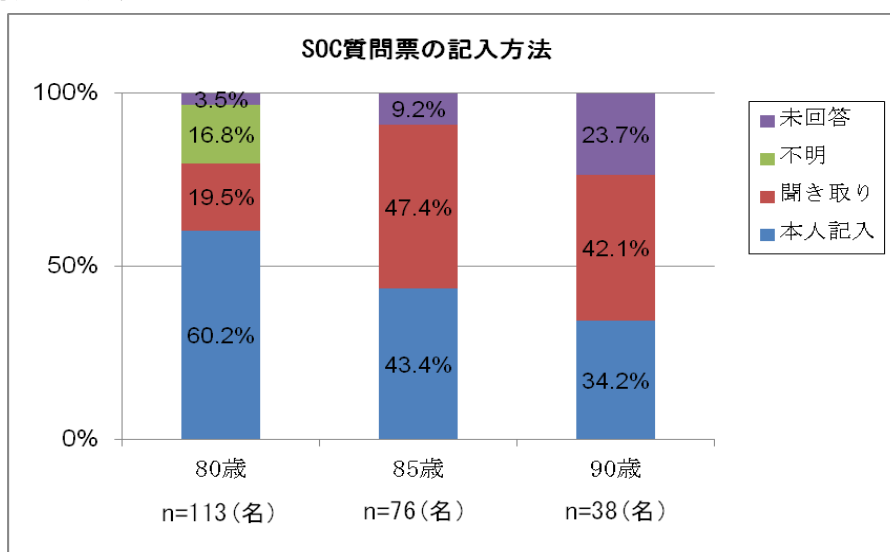
19. SOC得点※



SOC得点（平均値）は、80歳で64点、85歳で66点、90歳で65点であった。各年齢におけるSOC得点に統計学的な有意差は認めなかった。

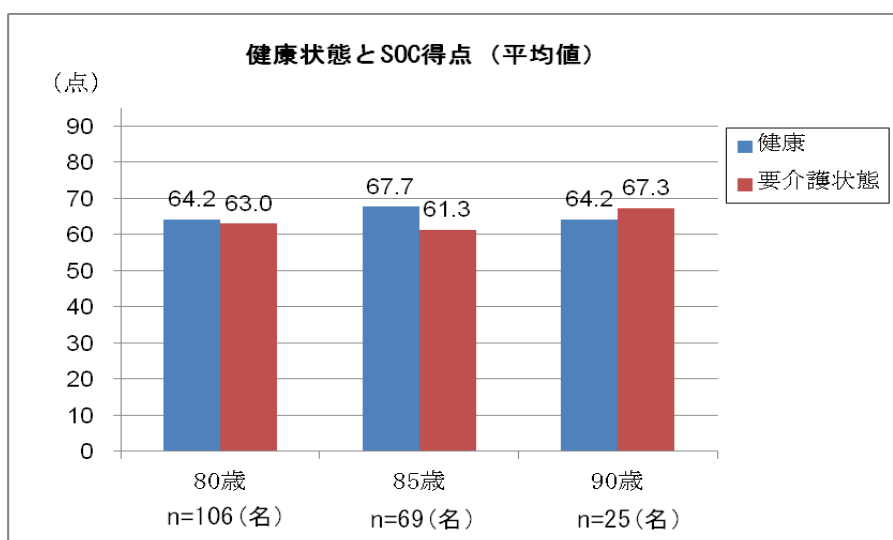
※ この物差しは、SOC（Sense of Coherence＝首尾一貫感覚）と呼ばれる概念に基づき、イスラエルの健康社会学者が体系化したもので、質問に対し、自分の感じ方を最もよく表している番号を選び、合計点が高いほどストレスへの対処能力が高く、さらには健康維持能力が高いと評価されます。

20. SOC 質問票の記入方法



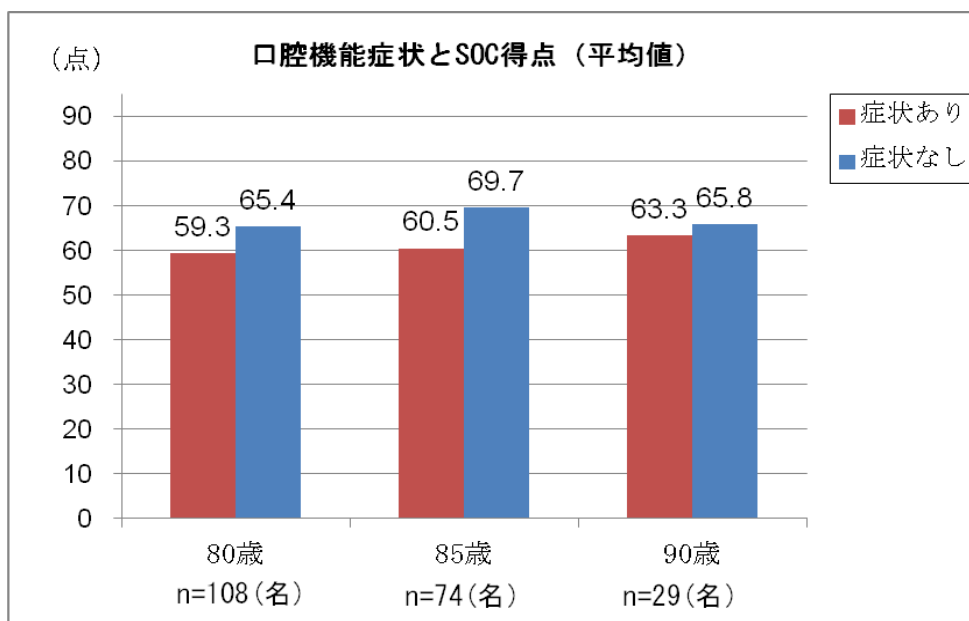
記入方法は、加齢に伴い本人記入が減少し、聞き取りが増加した。

21. 健康状態と SOC 得点



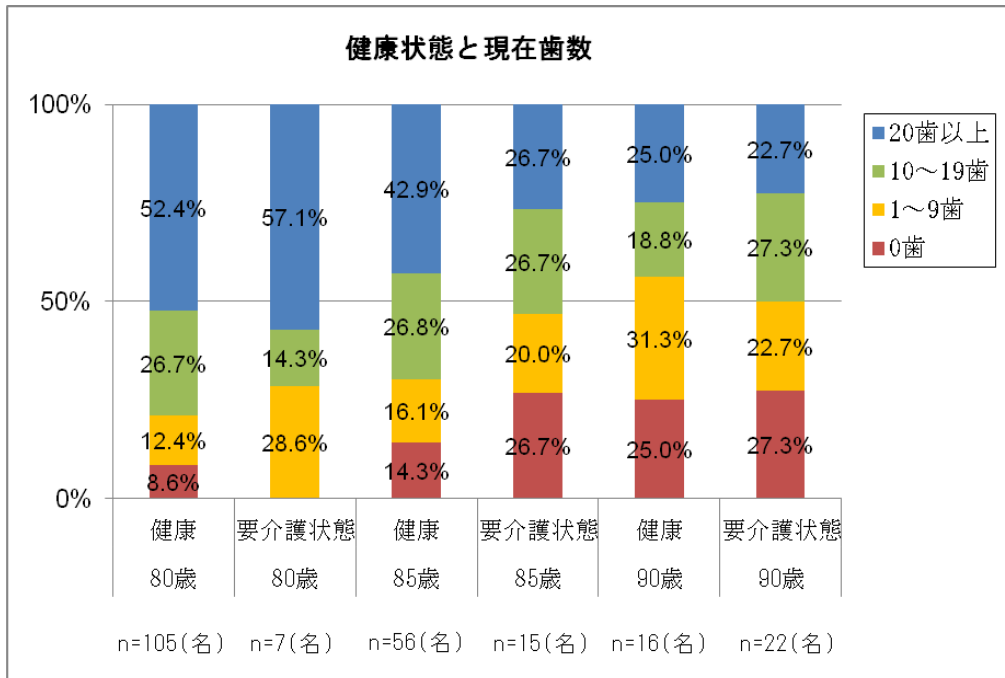
健康と要介護状態（要支援・要介護）別に SOC 得点の差を比較すると、85 歳では健康な人は要介護状態の人より SOC 得点が有意に高かった（Mann-Whitney の U 検定、 $p < 0.05$ ）。

22. 口腔機能症状とSOC得点



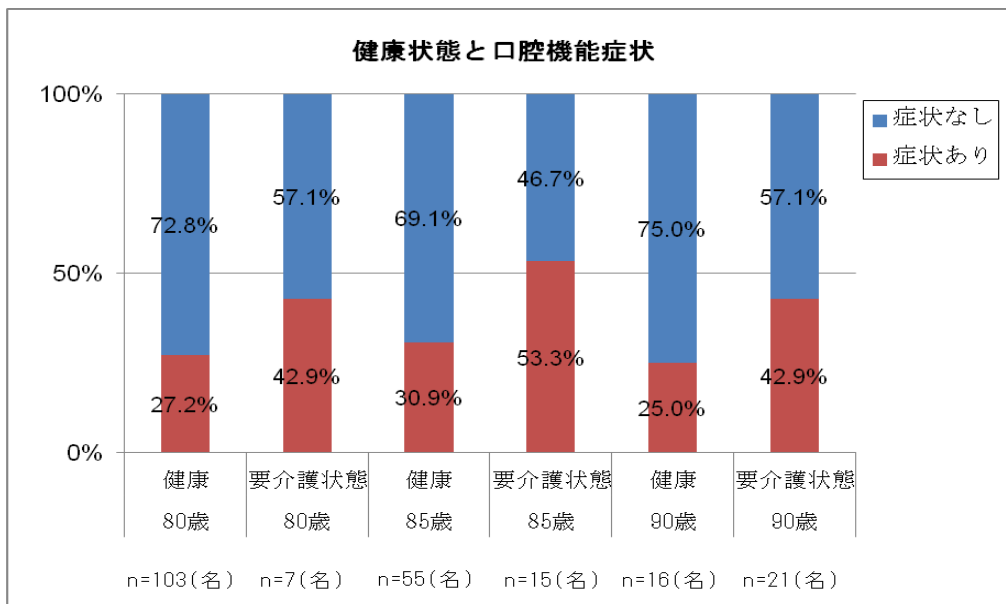
口腔機能症状の有無とSOC得点の差を比較すると、80歳では口腔症状なし群65.4点が症状あり群59.3点より有意に高かった ($p < 0.05$)。また、85歳では口腔症状なし群69.7点が症状あり群60.5点より有意に高かった ($p < 0.01$)。90歳では有意差は認めなかった。

23. 健康状態と現在歯数



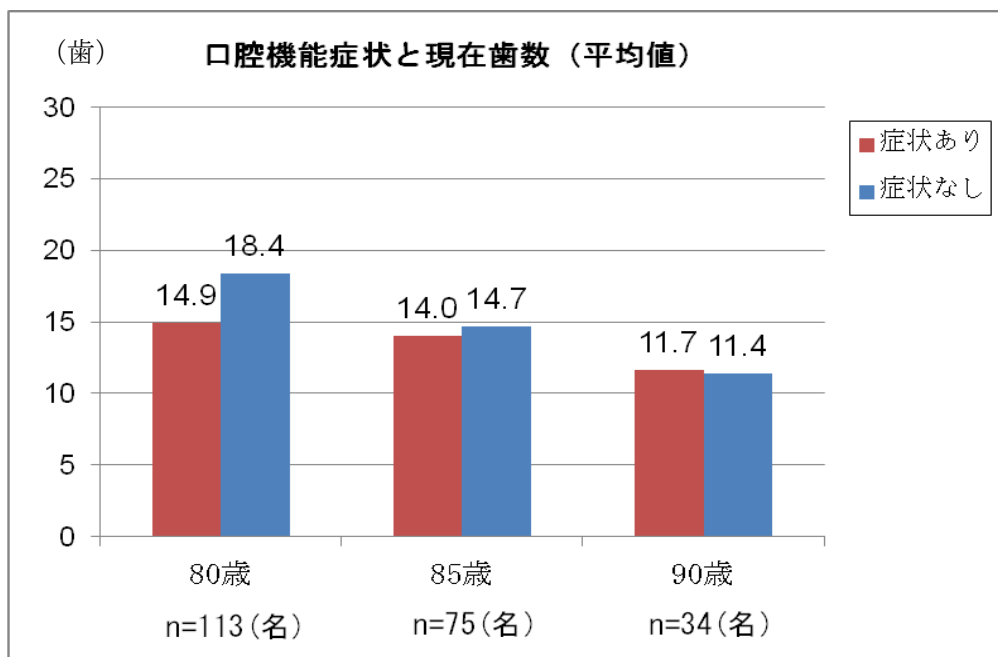
健康状態と現在歯数を分類別に比較すると、85歳と90歳で、健康な人は要介護状態の人より20歯以上の割合が高く、0歯の割合が低い傾向があった。

24. 健康状態と口腔機能症状



健康状態と口腔機能症状の有無を比較すると、いずれの年齢でも、健康な人は要介護状態の人より口腔機能症状ありの割合が低い傾向があった。

25. 口腔機能症状と現在歯数

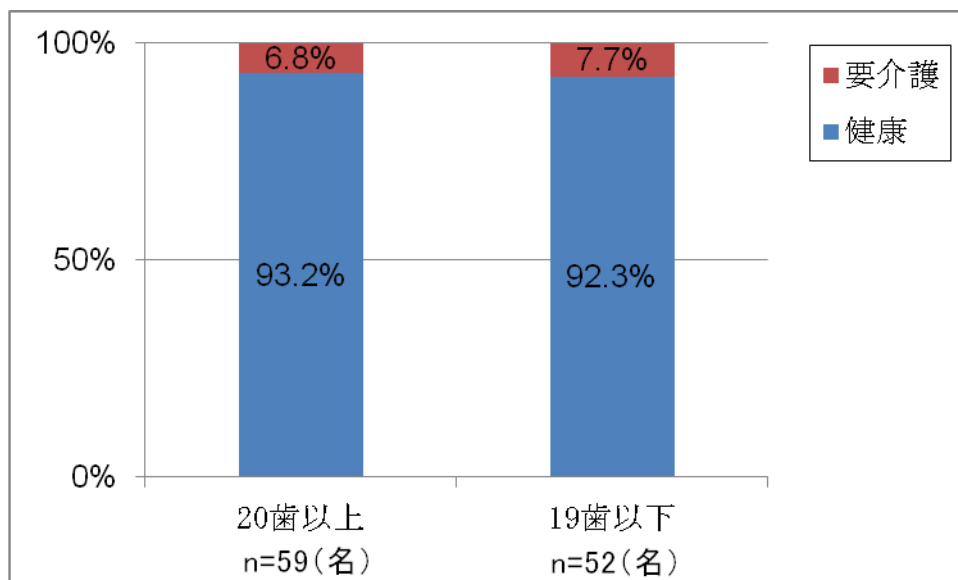


口腔機能症状の有無と現在歯数を比較すると、80歳と85歳では、口腔機能症状なしの群は症状ありの群より現在歯数が多い傾向があった。

各年齢における現在歯数 20 歯以上と 19 歯以下との比較検討

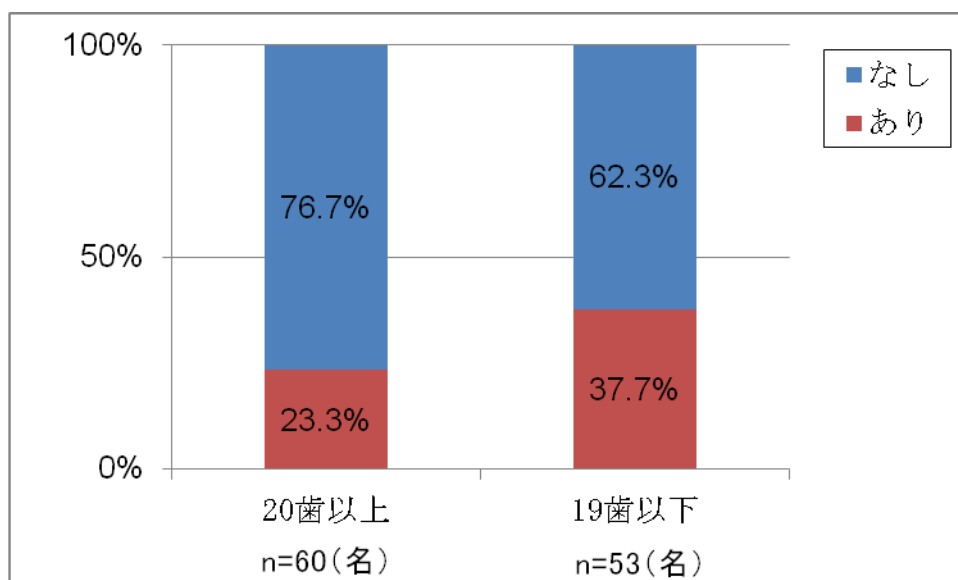
80 歳

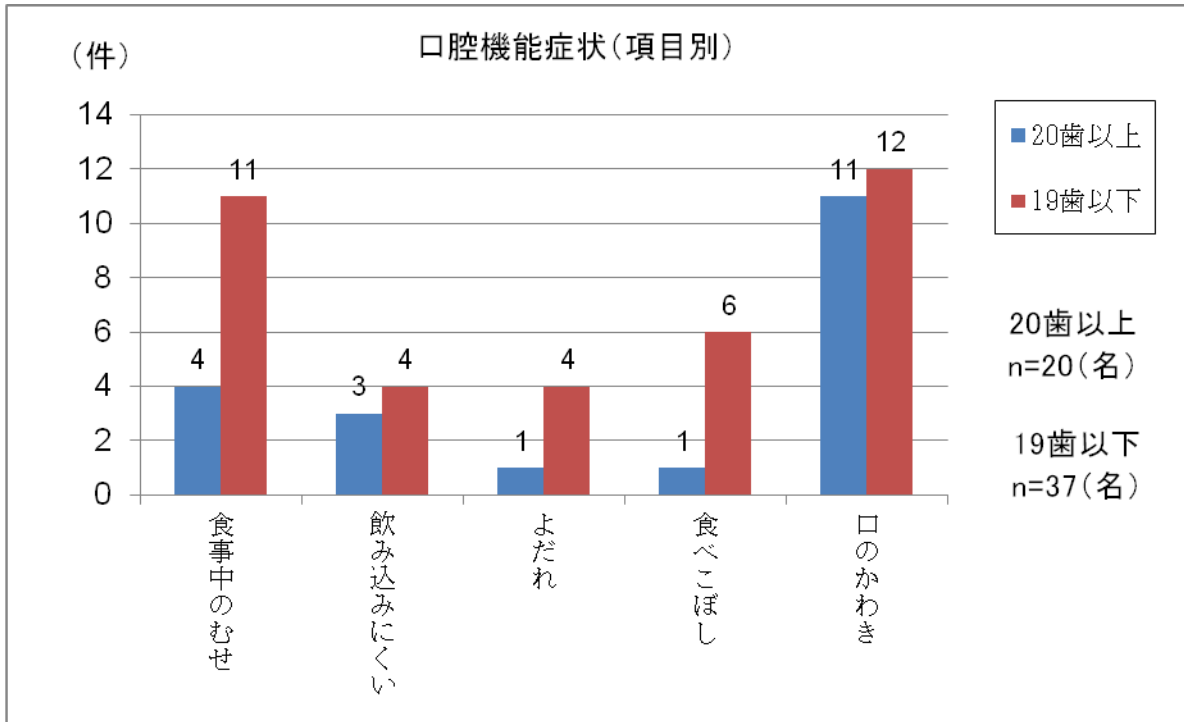
1. 健康状態



健康状態については、20 歯以上および 19 歯以下共に健康であると回答した人が 90%以上を占めていた。本調査では、20 歯以上および 19 歯以下は健康状態に差を認めなかった。

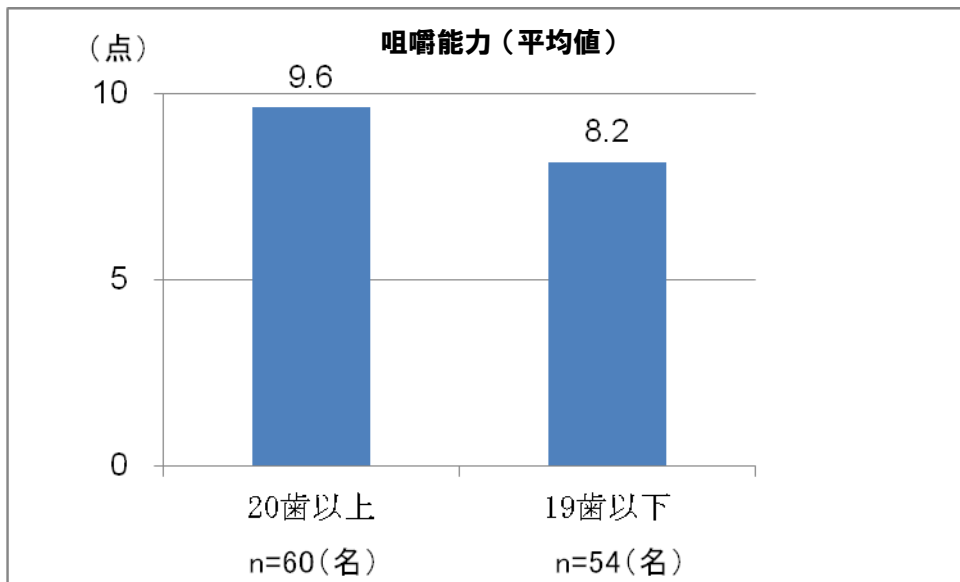
2. 口腔機能症状

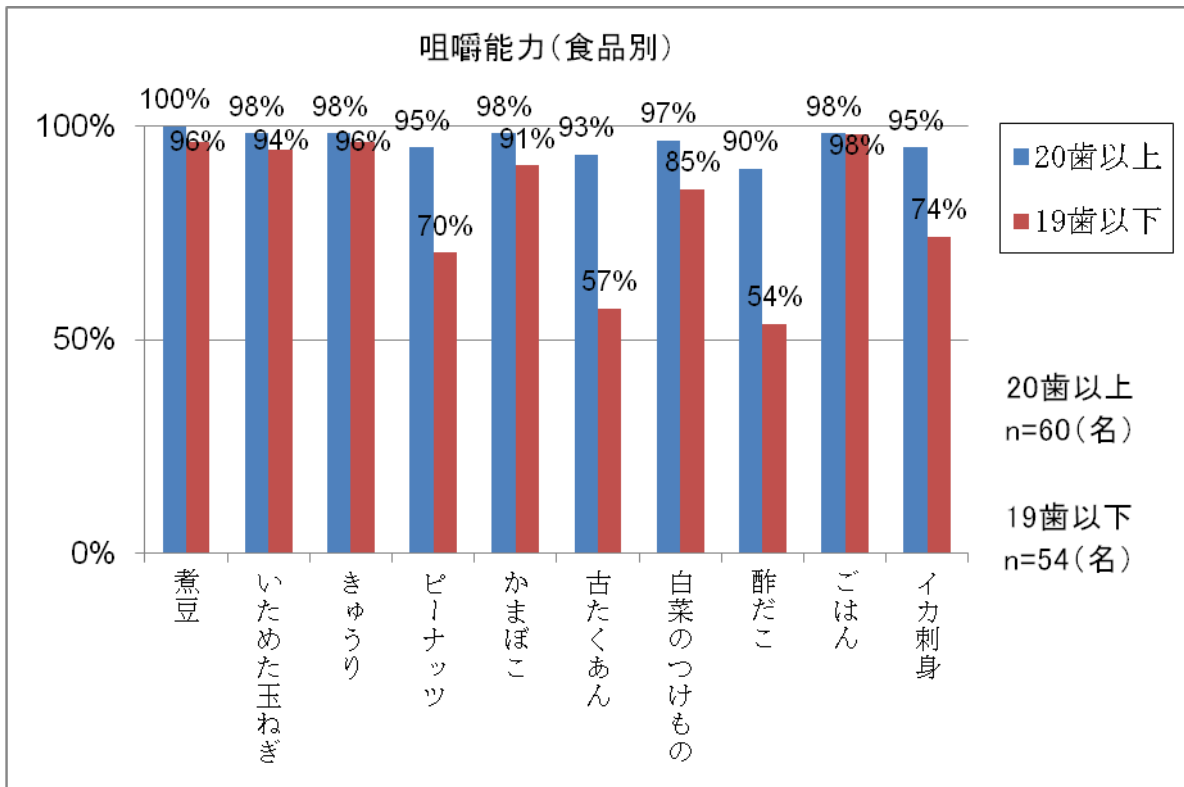




口腔機能の症状なしが、20 歯以上 76.7%は 19 歯以下 62.3%と比較し、その割合が高い傾向が認められた ($p < 0.1$)。口腔機能症状 (項目別) でみると、いずれの項目も 20 歯以上が 19 歯以下と比較し件数が少なかった。

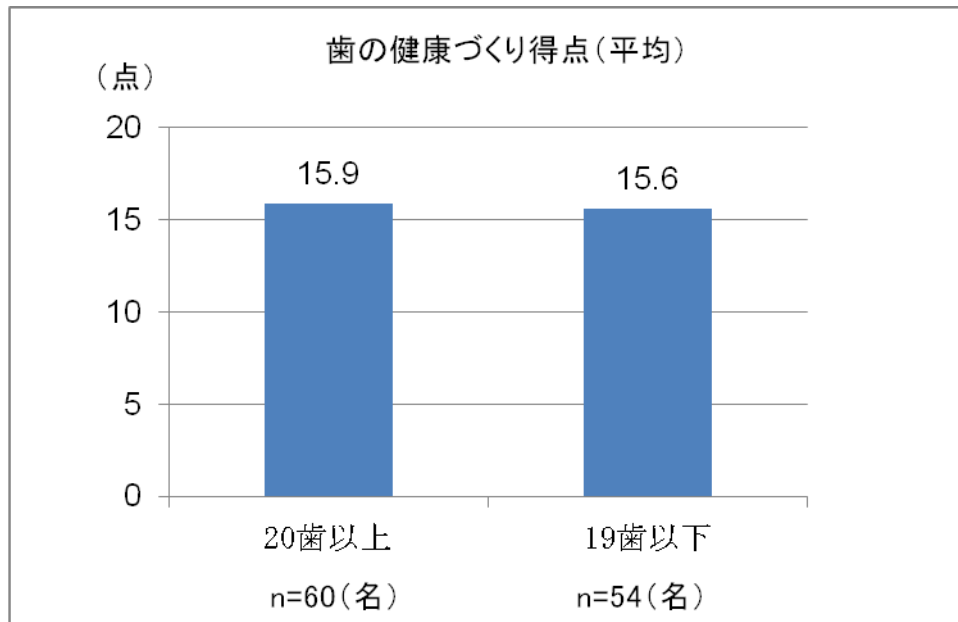
3. 咀嚼能力

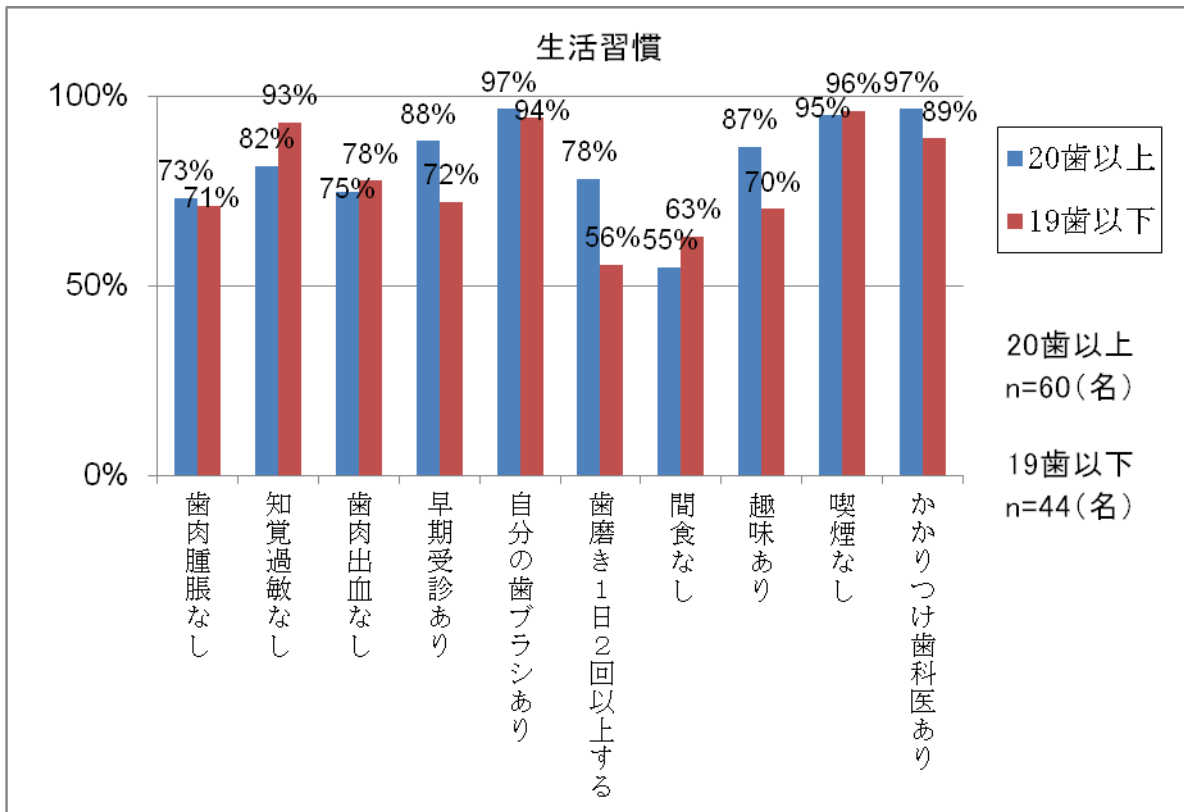




咀嚼能力(平均値)は、20歯以上が19歯以下と比較し高かった ($p < 0.001$)。食品別の咀嚼能力は、古たくあん ($p < 0.05$)、酢だこ ($p < 0.05$)、イカ刺身 ($p < 0.05$) については20歯以上が19歯以下と比較し高かった。

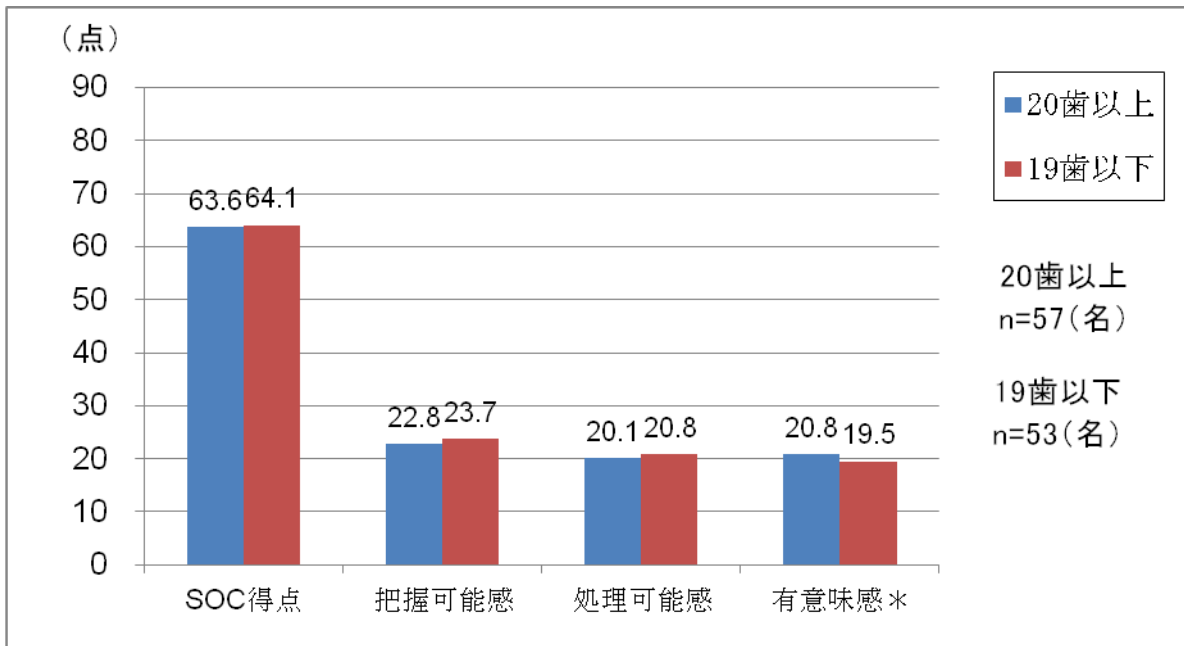
4. 歯の健康づくり得点





歯の健康づくり得点の平均値は、20歯以上と19歯以下では差を認めなかった。各項目で見ると、「早期受診あり」 ($p < 0.05$)、「歯磨きを1日2回以上する」 ($p < 0.01$)、「趣味あり」 ($p < 0.05$) について、20歯以上が19歯以下と比較し高かった。

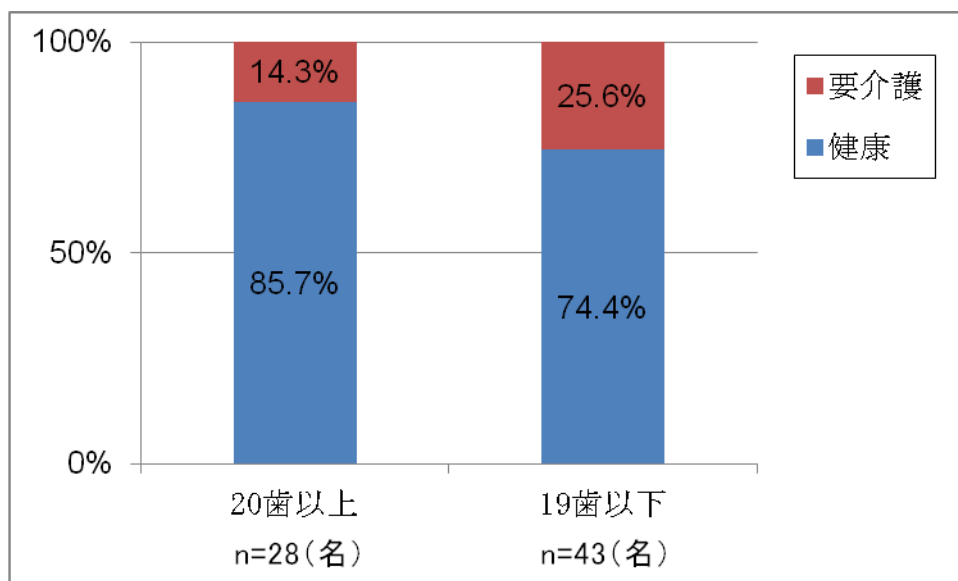
5. SOC 得点 (平均値)



SOC 得点の平均値は、20歯以上と19歯以下では差を認めなかった。SOC の下位尺度では、有意味感 ($p < 0.05$) について、20歯以上が19歯以下と比較し高かった。

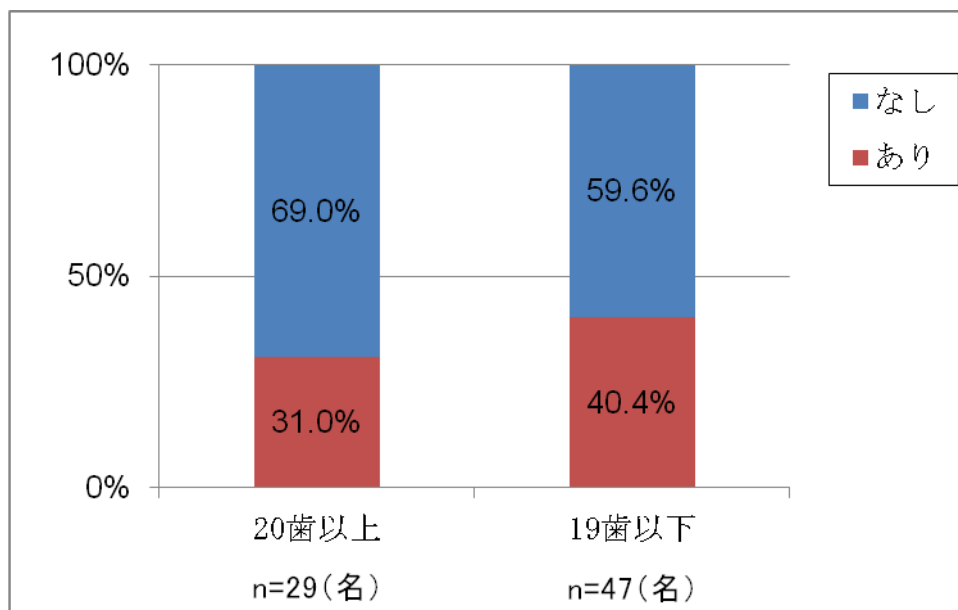
85 歳

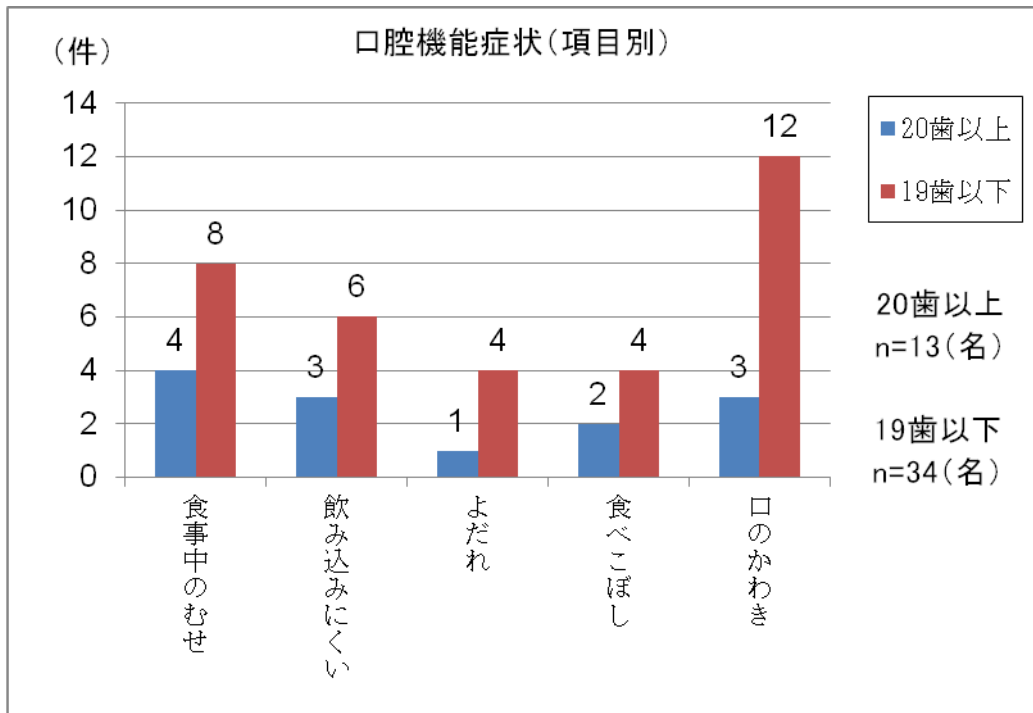
1. 健康状態



健康状態については、20 歯以上では 85.7%が、19 歯以下では 74.4%が健康であると回答した。

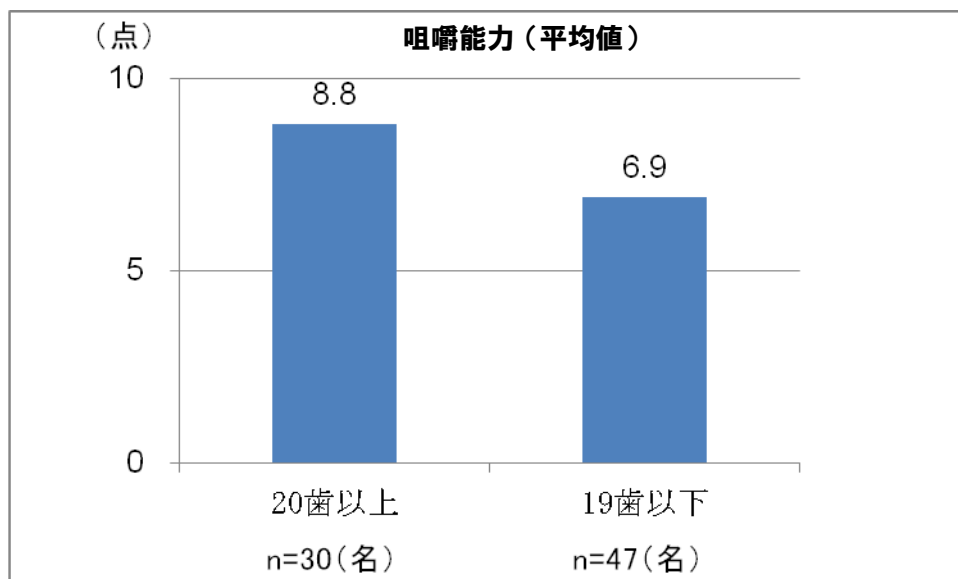
2. 口腔機能症状

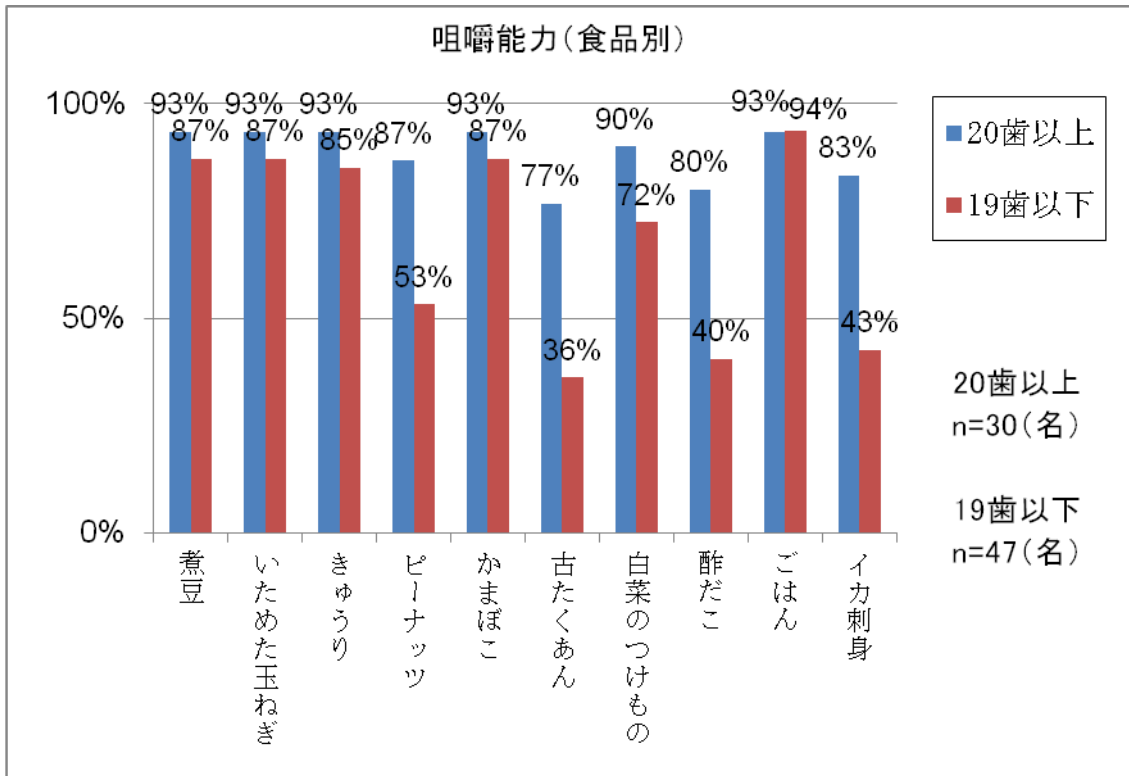




口腔機能の症状なしが、20 歯以上では 69%、19 歯以下では約 60%であった。口腔機能症状 (項目別) でみると、いずれの項目も 20 歯以上が 19 歯以下と比較し件数が少なかった。

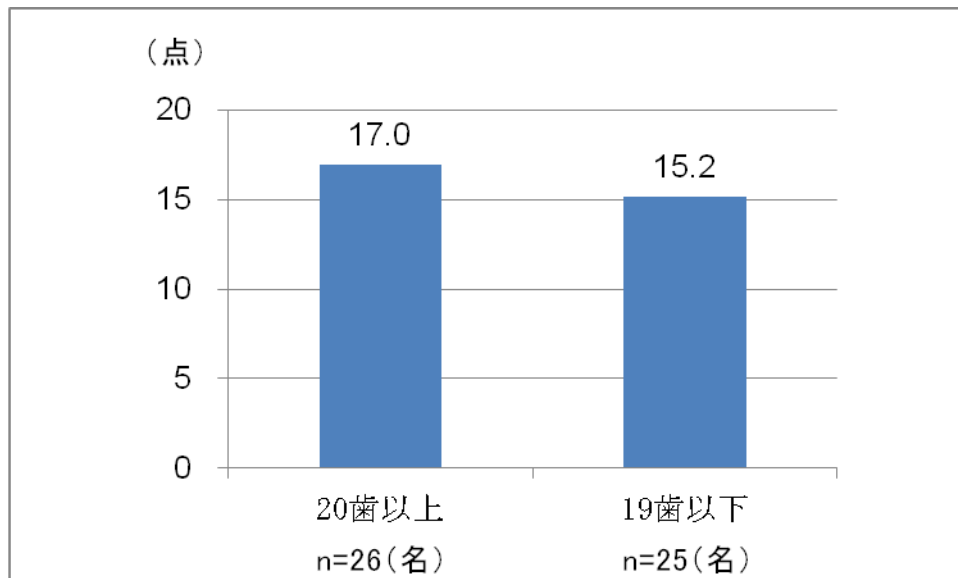
3. 咀嚼能力

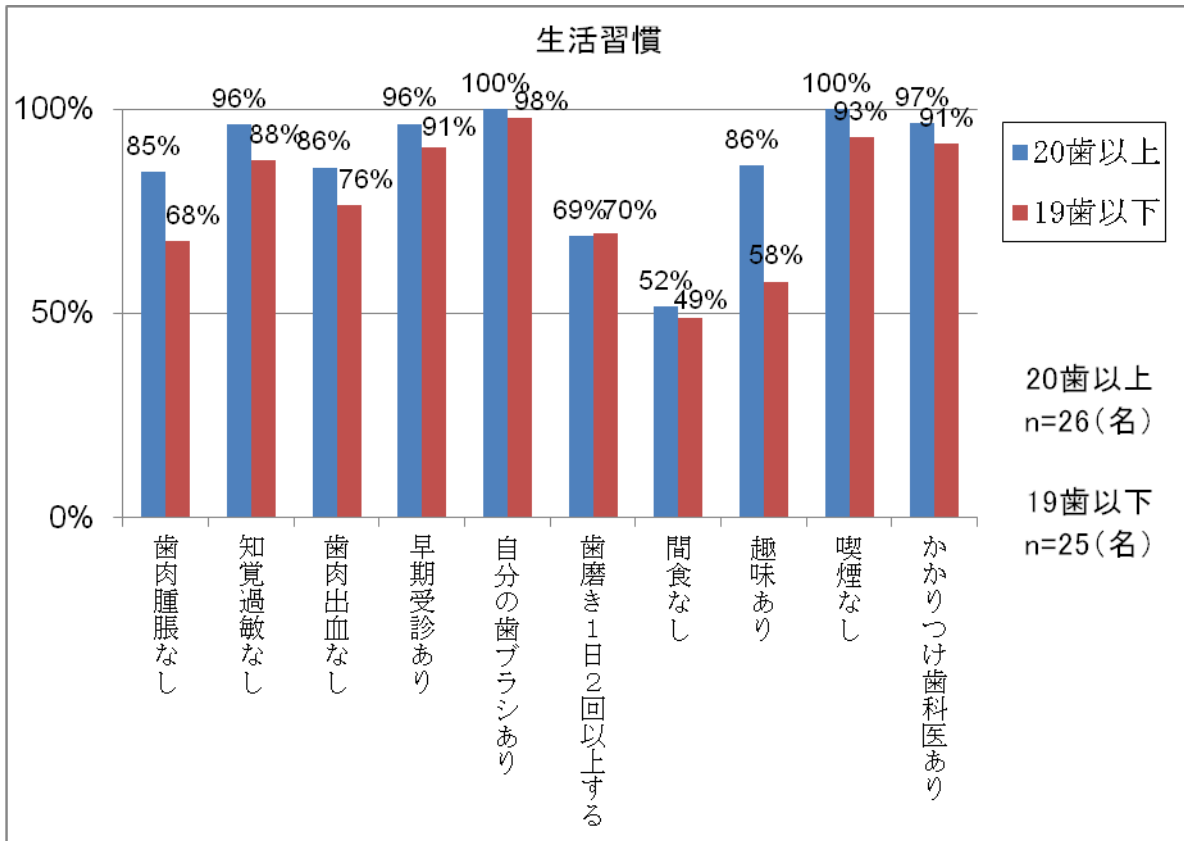




咀嚼能力(平均値)は、20歯以上が19歯以下と比較し高かった ($p < 0.001$)。食品別の咀嚼能力は、ピーナッツ ($p < 0.01$)、古たくあん ($p < 0.001$)、白菜のつけもの ($p < 0.1$)、酢だこ ($p < 0.001$)、イカ刺身 ($p < 0.001$) については20歯以上が19歯以下と比較し高かった。

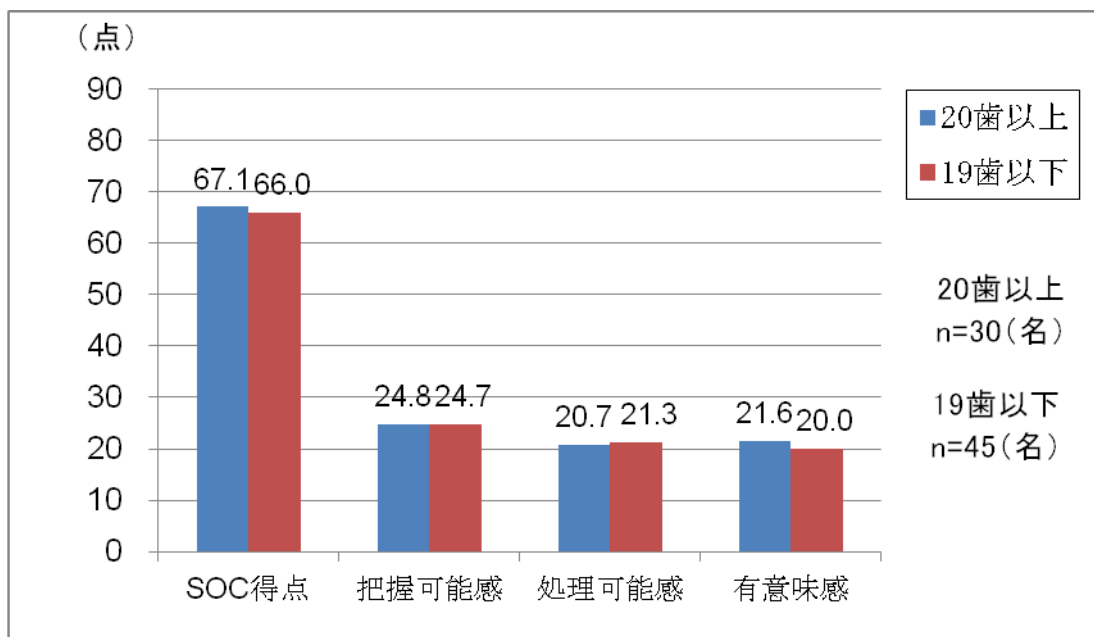
4. 歯の健康づくり得点(平均値)





歯の健康づくり得点の平均値は、20歯以上が19歯以下と比較し高かった ($p < 0.01$)。各項目でみると、「趣味あり」 ($p < 0.05$) について、20歯以上が19歯以下と比較し高かった。

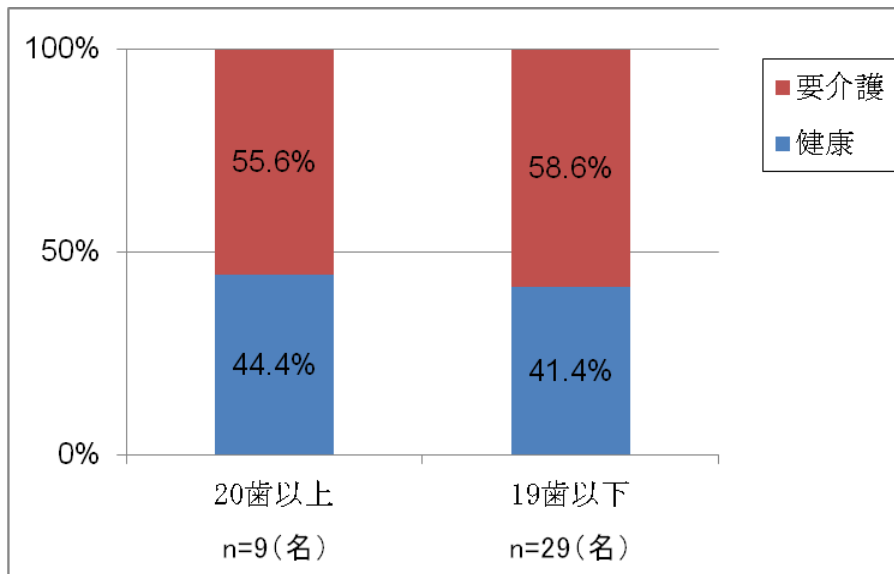
5. SOC 得点 (平均値)



SOC 得点の平均値は、20 歯以上と 19 歯以下では差を認めなかった。SOC の下位尺度では、有意味感 ($p < 0.05$) について、20 歯以上が 19 歯以下と比較し高かった。

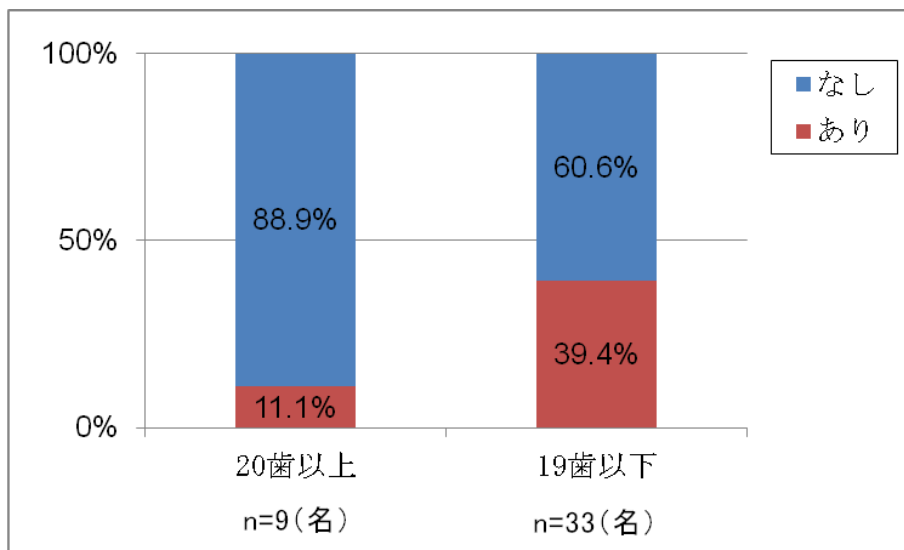
90 歳

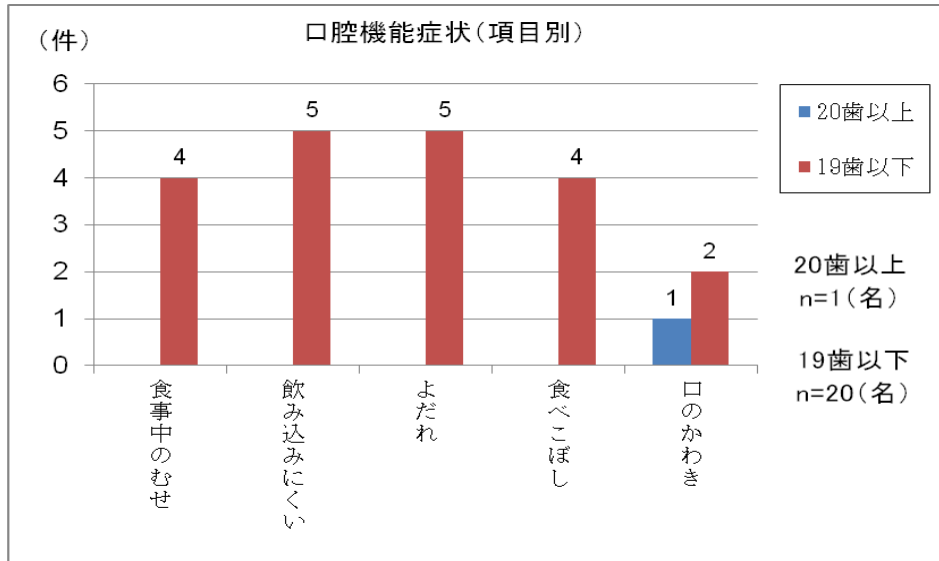
1. 健康状態



健康状態については、20 歯以上では 44%が、19 歯以下では 41%が健康であると回答した。

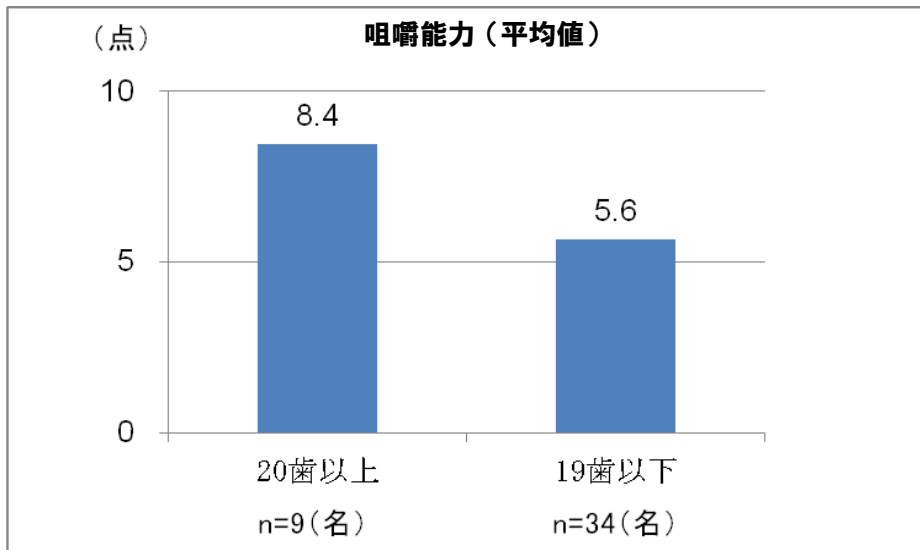
2. 口腔機能症状

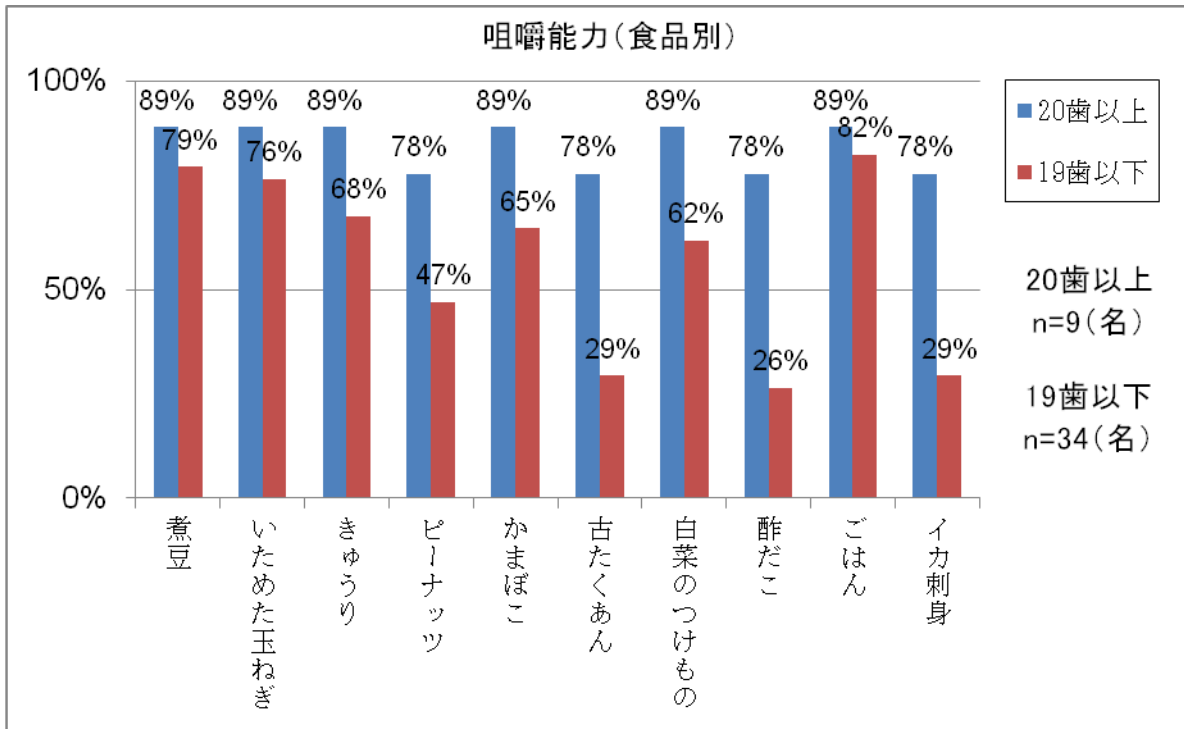




口腔機能の症状なしは、20 歯以上では約 89%、19 歯以下では約 61%の割合であった。19 歯以下において口腔機能各症状が観察された。

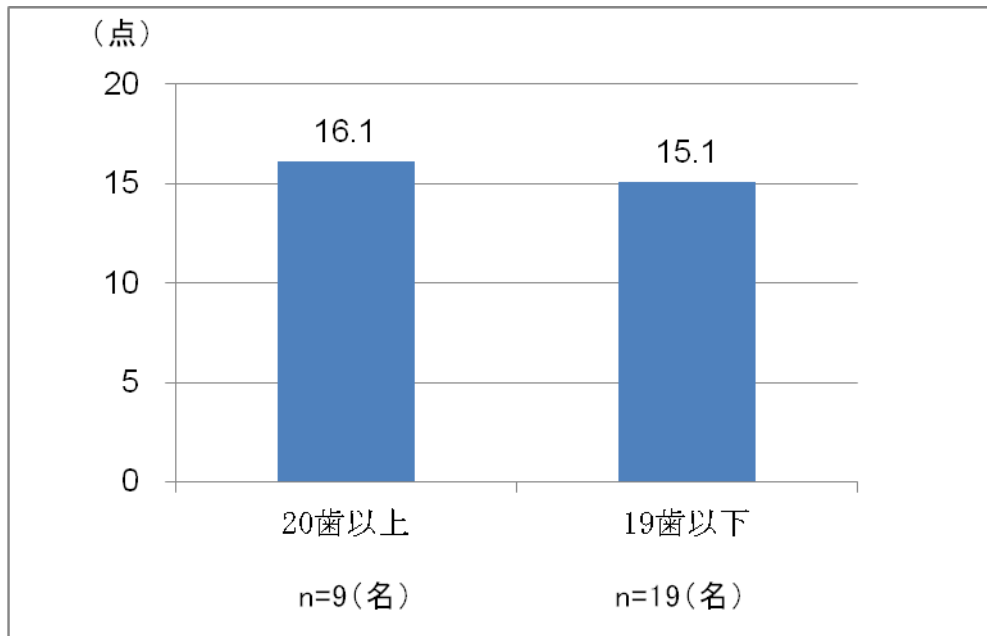
3. 咀嚼能力

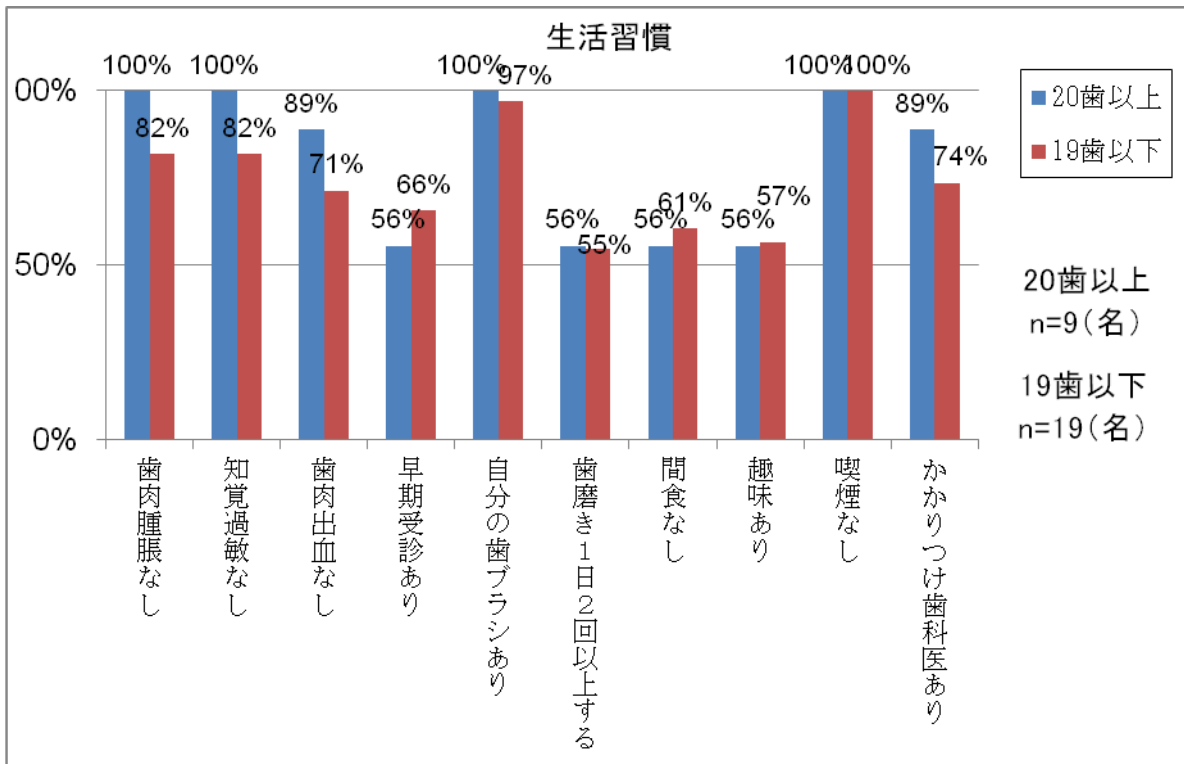




咀嚼能力(平均値)は、20歯以上が19歯以下と比較し高かった ($p < 0.01$)。食品別の咀嚼能力は、古たくあん ($p < 0.05$)、酢だこ ($p < 0.05$)、イカ刺身 ($p < 0.05$) については20歯以上が19歯以下と比較し高かった。

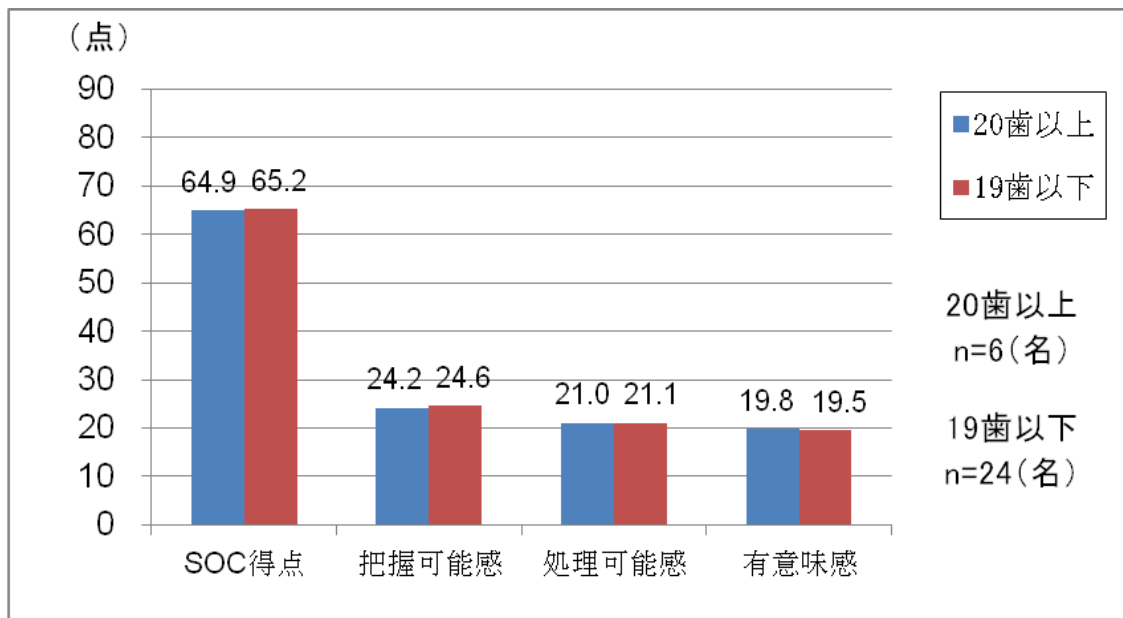
4. 歯の健康づくり得点(平均値)





歯の健康づくり得点の平均値は、20 歯以上と 19 歯以下では差を認めなかった。各項目いづれも、20 歯以上と 19 歯以下で差を認めなかった。

5. SOC 得点 (平均値)



SOC 得点の平均値は、20 歯以上と 19 歯以下では差を認めなかった。SOC の下位尺度でも、20 歯以上と 19 歯以下では差を認めなかった。